

JR東日本水郡線統括センター副長
高橋利一さん（五十代）

運休の判断

三十分で運転中止、また台風が直撃すると予想されました十三日も始発から全て列車の運転を取りやめ、バス代行も一切行わないということで、ご迷惑をかけたと思うんですが、これは事業者として正しい判断だったと思っております。

過去の水害を活かした対策

十三日の朝方になりまして、第六久慈川橋梁を見に行きました。橋梁が崩落しているのは間違いなく確認できたのですが、落ちた橋げたがない。水かさが上がって橋げたが川の中にもぐっていったという状況だったというのは特別に印象にあります。橋げたが七基あるんですが流されておりました、その橋げたを支える橋脚についても六脚あったんですが四脚が流されて、横たわっている状態でした。

水郡線の車両ですが、幸いにして一切の被害がありませんでした。北陸新幹線の長野の方で台風とか河川増水で新幹線車両が水没したときの教訓を生かしまして、大子の車両基地は土地が低いとわかっていたので、車両基地から安全な場所、水戸駅の方に回送させたり郡山に持って行ったというところで、全ての車両を疎開させました。

まずですね、台風が来るぞっていうところからお話しします。
かなり大きな台風、雨を伴う、風も強いというところで、水郡線は前日の十月十二日十五時を

ただ通信手段は被害を受けました。今どういう状況なのか、正確な状況や情報を取ることや、水戸の災害対策本部の方で、どういう考えとか動きをしているのかっていう情報を得るのがものすごく苦労したと覚えていきます。

線路が切れたことによる弊害

橋梁が崩落したということで、水郡線は袋田から水戸よりの線路と、常陸大子から郡山の方と、二つにわかれてしまいましたので、個別の車両の整備の点検にもすごく支障をきたしました。また車両それぞれ疎開はさせたんですが、線路がつながっていればまた戻せばいいだけなんですが、線路が切れてしまったため、ちよっとアンバランスに疎開をさせてしまったということがありますので、例えば常陸大子・郡山間の車両が足りないので、一方、水戸・袋田間の方については車両が余ってしまうというアンバランスな輸送提供になってしまいました。そのため、常磐線できわきを回して、そこから磐越東線を経由し郡山まで戻して、郡山から水郡線で大子に戻す、といった経験したことないような調整をしたなっていう記憶があります。

もって全ての列車の運転を打ち切るという判断をいたしました。お客様の安全や命を預かるという職種においては安全運行が第一でしたので、前日十二日の十五時

あとは、車内のトイレです。トイレの汚物処理は常陸大子の施設で行っております。線路がつながっていませんでしたので、汚物の処理ができず、トイレが使えませんでしたというのかなり続きました。とはいっても生理現象はありますので、どうしても我慢ができないお客様は、駅に止めて駅のトイレをご案内したり、バキュームカーを持ってきて、車両に直接繋いで汚物を抜いたり、あとは常磐線の勝田の車両基地を借りて処理をしたり、少しでもお客様にご迷惑をかけないように対策をとっております。

水郡線の早い復旧を目指す

二つ目は、復旧ということですが、ある程度、雨とか風もおさまりまして、設備等の緊急点検を行いました。一年六か月、橋の崩落の復旧工事を進めまして、二〇二一年の三月二十七日に全線運転再開しました。地域の足ということで、一刻も早い復旧というのが事業者としては当たり前に思うところなんです。みんなだ思っていたのは、水郡線が運転再開することで、皆さんを元気づけられればっていう気持ちです。不眠不休の復旧作

業というのが続いてたなっていう風に思います。

協力して復興へ

新型コロナウイルスもありまして、お客様の数は全然戻ってないです。JR東日本が発足したのが一九八七年で、このときのお客様の利用者数を一〇〇としますと、二〇二〇年は四六、と水郡線に乗車されるお客様は半分以下に減ってしまっている。ちよつと悲しい現状ですね。水郡線をこれから未来にわたって残していくというのは私たち事業者の責務になりますので、今の内からできること、取り組むことがあるはず…。つくづく思っています。JR東日本単体だけでは、難しいので、沿線の皆様や同じ交通事業者、そういった方と連携を組んで一十一は二じゃなくて三になるとか四になるとか、沿線みんなが手を取り合って、そのエリアを元気にする、活性化していけば、自然に水郡線の利用者だって増えるだろうと思います。

第六橋梁がつながりまして、全線再開して以降は、臨時列車を借りて運行させたり、二〇二二年の三月は全線運転再開してちょうど一年経ちましたので、大子町さんのご協力を得まして水郡線感謝祭を実施したり、二〇二三年は茨城デステイネーションキャンペーンという全国規模の大きなキャンペーンも開催されますので、ぜひ大子町

に全国のお客様にお越しいただけるような政策、宣伝展開が進めていければと思います。

これからも地域のみなさまと極力連携を取り合って進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



被災後の水郡線第六久慈川橋梁